

海軍航空隊串良基地

鹿屋市は、戦時中、3つの飛行場(笠野原・鹿屋・串良)が存在し、海軍の重要基地として位置づけられました。また、鹿屋基地から908名、串良基地から363名と、日本で最も多くの特攻隊員が飛び立った地です。本土最南端の防衛拠点として、多くの軍事施設が築かれ、現在、基地周辺には数多くの戦争遺跡が残されており、平和学習を推進するうえで、重要な場所となっています。

【開隊までの状況】

ミッドウェー海戦の敗北以降、日本軍の戦況は悪化していき、劣勢を挽回しようと海軍では大量に飛行予科練習生を採用したため、既存の航空基地だけでは収容しきれなくなり、串良をはじめ全国に航空基地が建設されていきました。

【基地の整備】

昭和18年から海軍は基地建設のため佐世保海軍施設部串良工事事務所を設置し、施設技師の指導のもと、朝鮮人労働者をはじめ学徒動員や勤労奉仕等により軍事施設の建設が始まりました。掩体壕づくりや防空壕掘り、谷の岩を破壊した石や崖下からシラスを運んでの滑走路づくりなど重労働により約600haの串良基地が開隊しました。

【串良基地の消滅】

串良航空隊は、昭和19年4月に航空機の整備・搭乗・通信等の教育をする「普通科飛行機整備術教程」を主任務として開隊し、約5千人の予科練生が猛訓練を受けました。昭和20年になると戦況の悪化とともに航空隊教育は中止され、鹿屋基地などの各航空隊とともに航空作戦を支援し、4月6日からの菊水作戦に参加しました。7月頃には内之浦から特攻出撃する人間魚雷「回天」の隊員の兵舎にもなりましたが、終戦により部隊も解隊し、枕崎台風による兵舎倒壊や進駐軍政策によりほとんどの施設が消滅しました。

【串良基地からの特攻出撃】

串良基地は艦上攻撃機が中心の基地として天山や九七式艦上攻撃機が多数特攻出撃し、菊水第7号作戦からは、徳島白菊隊による練習機白菊による出撃となりました。串良基地から特攻隊員363名、特攻以外の攻撃隊210名の573名が犠牲となりました。

練習機白菊には訓練のため通信機が常備されていましたが、特攻をすれば通信機が無駄になると軍上層部が判断し、わざわざ取り外して出撃した白菊が多くありました。5月28日の特攻は出撃後の天候悪化により作戦中止となり、通信機がある白菊は引き返しましたが、通信機が取り外された4機には連絡する方法がなく、特攻中止を知らない7名が戦死する結果となってしまいました。



串良基地の特攻隊員たち



海軍串良航空基地

【 鹿屋の戦争遺跡 1 】



串良基地出撃戦没者慰霊塔

昭和44年春、飛行予備学生で特攻隊員だった渋谷幽哉氏が、戦死した戦友の慰霊のため慰霊塔建設用地として現在の平和公園の土地買収を町に申し出ました。当時の佐枝町長らは、慰霊塔建設は町主体で建設すべきであると直ちに建設期成会を立ち上げ、その年の10月には完成しました。当時の首相佐藤栄作氏に塔の「慰霊」の文字を揮毫してもらっています。



滑走路跡

慰霊塔を挟んでV字に走る2本の道路が当時の滑走路です。北^{たかくま}に高隈連山、南に国見連山があり、風向きが安定している東西に走る道路が主滑走路で、南北は副滑走路として使用されました。米軍機は西の方から飛んでくるが多かったため、串良基地の飛行機は東側から着陸していたといいます。



戦没者慰霊碑

太平洋戦争末期に串良基地で予科練として訓練した同期生や各航空隊から派遣された部隊の生存者や遺族が、戦没者の霊を慰め、恒久の平和を祈願するため串良平和公園入口に記念碑を建立しました。全ての記念碑は戦没者が目指して行った沖縄の海に向けて建てられています。



串良基地跡の地下壕電信室

地下壕電信室は、特攻出撃した隊員からのモールス信号を受信した場所です。特攻隊員との最後の通信を受信した施設であり、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐ貴重な遺跡であることから鹿屋市指定文化財に指定されました。当時、通信士として働いていた市田謙三元兵曹は、「死に水をとるつもりで通信を聞いた」と、回想記に記しています。

【 鹿屋の戦争遺跡 2 】



地下司令部壕跡

滑走路跡から南に100m程離れた畑の中に、2箇所の入口と3箇所の通気口が見え、その地下に司令部壕がありました。しかし、町内に住む人によると「空襲の時の避難壕になっていた」という証言があることから、実際は使用されなかった可能性があります。



発電室跡

このコンクリート造りの発電室では、串良基地の全施設の電気を賄っていたとされています。そのさらに奥に貯水槽らしき施設があり、反対側にもコンクリート造りの柱らしき施設がありますが、当時なんらかの役割を果たしていたのかも知れません。



観測所から見る志布志湾

大塚山観測所

海拔109mの大塚山は、東側は志布志湾が一望でき、西側は鹿屋方面が見渡すことができます。頂上付近に素掘りの横穴があり、志布志湾を見下ろす東側にコンクリートで補強された観測所があります。連合国軍の上陸に備え、上陸を監視し、配下の金丸陣地、大塚山陣地の砲台に砲撃の指示を与えるために造られました。



埋もれた観測所